

まちの履歴書

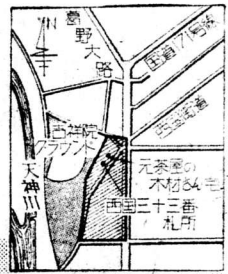
(303)

の旧家、藝太本村正三(八五)宅。本村さんは茶屋とちみな次のような話を聞かせてくれた。まさかの呼び名「三軒茶屋」と呼ぶのは大阪、久世方面の人。これに対し吉徳院天満宮のある政所町付近の人からは西方向にあたるので「西茶一(じ)んじよ)さむに町より南の集落から「上(か)ノ茶屋」北の集落から「下(しも)の茶屋」と呼ばれた。明治以前までは三軒が勢いをふるっていたが、西国瀬川の掛開始は致命

南区吉祥院

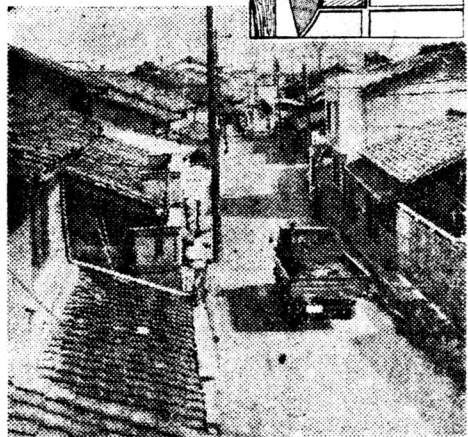
西ノ茶屋町

今では西国街道は裏通りとなり、国道一七二号線に、動脈を譲っているが、ひと昔前までは京都と西国を結ぶメインルート。旅人から「三軒茶屋」でひと休みしてから京にはじろろ」と、街道の休憩所扱いにされたのがかつての西ノ茶屋(じしちや)町だった。もともと、人町名の由来もこの茶屋から。茶屋といっても祇園なみ花街の茶屋ではなく、手甲脚はんワラシ。旅を続ける時は必ずここで弁当を齎けた。同町京都都心の部間(むら)とひと風入ればはともす。茶屋としてはうってつけの立地条件だったのだらう。茶屋は街道西側に三軒あった。その一軒は町町まいて



旅人の一服場所

京都・西国結ぶ主要路



京への旅人の通り道だった町筋



いまも変わらぬ日向地蔵尊

ったコエを牛車で運んだので「朝(あ)さきの通り」とはおもしく。しかしていまは遠く。ゆをむかにカマする舗装された西国

街道は裏通りだが、住みよい住宅街の一画、東側には「バス停」。前なら、同町は庶民の旅の必要。性から生まれた必然的な町名。よい。四年前「仁木ノ森町」か、いすれも古い歴史を誇り、吉祥院の代表でもある。幸三郎(会長)もまごもりがよ

西ノ茶屋町の成立は昭和35年なので、昭和39年の新聞記事と思われます。